

ПОРОНАЙСК



サハリンアウリーチレポート!

クライスト・フォー・サハリン・インヨンス・ジャパン 聖書学院

CFNJ NEWS

2014年11・12月号 NO.161

神様があなたを探し求めています

この世界は下降している！

ロドルフォ・ガルサ師



■アンドレアス・ルビッツは、ドイツの航空会社の副操縦士で、バルセロナからフランクフルトまでの飛行機を操縦していました。彼は飛行中、機長をだましてコックピット（操縦室）から追い出し、鍵を閉めてその飛行機の操縦権をとりました。ルビッツは次第に機体を降下させ、150人の乗客を乗せたままアルプス山脈に激突させたのです。その後の調査で、ルビッツは苦々しい思いを持っており、精神障害があったことがわかりました。

「神の助け無しに自分で出来る。」

■アダムとエヴァの墮落以来、今日に至るまで、この世は、神と神のみことばに背を向け続けてきました。それこそ、私たちの世界がコントロールを失い、下降し、さらに絶望的になっている主な理由だとも知らずに、人々は神を生活の中から追い出してきました。私たちは、国々が道徳的腐敗によっていかに墮落しているか、ということに気づくのに専門家になる必要はありません。かつては、家族的価値や高学歴社会のゆえに、従うべき良き模範と考えられて

いた国家は、今や、良いものを悪とし、悪いものを良しとする、正反対の方向へと向きを変えつつあります。その理由は、神がもはや国家の指導者として招かれていないからです。この世界のモットーはこれです。「神の助け無しに、私たちは自分でできる。」私たちは、家庭、学校、裁判所、さらには教会からさえ、イエス様を追い出してしまいました！

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネの福音書3章16節)

この世界は下降している！

■離婚、姦淫、麻薬、ポルノ、同性愛、墮胎は、私たちの社会において徐々に普通の状態となりつつあります。そして、これらは、道徳および人類の基本原則の最も低いレベルに世界が向かっている多くの物事のうちのわずかな部分にしすぎません。私たちの社会の礎石である家族と結婚は、絶えず攻撃されています。そしてこの蝕まれている状況をとどめることのできる解決策がないように思えます。信じようと信じまいと、もし私たちがイエス様に従わないなら、私たちはルビッツの霊の手の内にあることになり、この世界を日々、下へ下へと導くのです。そして知らないうちに、私たちはまもなく神様との正面衝突へと向かっていくのです！

破れ口を修理する者。

■エゼキエル書22章30節には、『神は破れ口を修理する者を彼らの間に捜し求めたが、見つからなかった。』とあります。この当時イスラエルは社会が惑わしの中にあり、人々は敵によって今にも打ち負けられそうになっていました。しかし人々は気にすることなく、かえって自分たちの快樂へと流されていました。この終わりの時代にあって、神様が探し求めているのはどのような人か？完璧な模範となる人々を聖書の中に見つけることができます。それは、破れ口に立って、倒れた城壁を築き上げる人々です。エレミヤの時代、イスラエルは預言者たちの声を聞かず、人々は他の国々に打ち負けられて捕囚とされて連れて行かれました。70年後、捕囚の民であったネヘミヤこそ、エルサレムの城壁を修復する働きをする者として神に見出された人でした。彼の名前ネヘミヤとは、「神は私の助け。」という意味です。それから数世紀が経ち、父なる神が、全人類を救う救い主である御子を遣わして下さるといふ約束の預

言を成就するために、イエス様が来られました。(創世記3章15)

「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」(創世記3章15)、

助け主なる聖霊。

■イエス様が来られたとき、イエス様は、私たちに「もう一人の助け主、イエス様とまったく同じような方、聖霊を送る。」と告げられました。

「その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。」(ヨハネの福音書14章17節)

そして、聖霊は神の御国を拡大し、主イエスの御名によって人々の人生と国々を回復するための助けを与えてくださいます。

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」(使徒の働き1章8節)。

破れ口に立つ為の7つの大切なもの。

■家族、町、そして国のために破れ口に立つために、人が持たなければならない7つのものがネヘミヤ記に記されています。

1) 真の同情心 (ネヘミヤ記1章4節・5節)

「私はこのことばを聞いたとき、すわって泣き、数日の間、喪に服し、断食して天の神の前に祈って、言った。『ああ、天の神、主。大いなる、恐るべき神。主を愛し、主の命令を守る者に対しては、契約を守り、いつくみを賜る方。』」(ネヘミヤ記1章4節・5節)

ネヘミヤは人々の必要に敏感であり、自分の国に対する同情心を持っていました。自分の国の民に何が起きているかを聞いたとき、彼は涙を流し、実際的にどんな具体的な助けができるかを探し求めました。

(4ページに続く)

2) 祈りと断食 (ネヘミヤ記1章4節・5節)

■ネヘミヤは祈りと断食をもって自分の国の民を執り成しました。彼は、目に見えないイスラエルの神を呼び求め、神が応えて下さるまで待ち望みました。そして神は応えてくださったのです！

3) 悔い改め (ネヘミヤ記1章6節、7節)

「どうぞ、あなたの耳を傾け、あなたの目を開いて、このしもべの祈りを聞いてください。私は今、あなたのしもべイスラエル人のために、昼も夜も御前に祈り、私たちがあなたに対して犯した、イスラエル人の罪を告白しています。まことに、私も私の父の家も罪を犯しました。私たちは、あなたに対して非常に悪いことをして、あなたのしもべモーセにお命じになった命令も、おきても、定めも守りませんでした。」(ネヘミヤ記1章6節、7節)

■ネヘミヤは、なぜ自分の国にこんなことが起きたのか、その理由を知りました。人々が神と神のみことばから離れたゆえに、今までさまざまなかたちで人々を祝福して下さっていた主に対して、人々が罪を犯したことを理解しました。ネヘミヤは彼自身の罪深い状態を認め、彼自身の罪を告白しただけでなく、彼の国の罪も告白しました。

4) 大胆さ (ネヘミヤ記2章1節～5節)

「アルタシャスタ王の第二十年のニサンの月に、王の前に酒が出たとき、私は酒を取り上げ、それを王に差し上げた。これまで、私は王の前でおれたことはなかった。そのとき、王は私に言った。『あなたは病気でなさそうなのに、なぜ、そのように悲しい顔つきをしているのか。きっと心に悲しみがあるに違いない。』私はひどく恐れて、王に言った。『王よ。いつまでも生きられますように。私の先祖の墓のある町が廃墟となり、その門が火で焼き尽くされているというのに、どうして悲しい顔をしないでお

られましょうか。』すると、王は私に言った。『では、あなたは何を願うのか。』そこで私は、天の神に祈ってから、王に答えた。『王さま。もしもよろしくて、このしもべをいらしてくださいますなら、私をユダの地、私の先祖の墓のある町へ送って、それを再建させてください。』(ネヘミヤ記2章1節～5節)

■ネヘミヤはエルサレムの城壁の修復のため、自ら進んで危険を冒し、王の好意を求めました。自分の命の危険を冒してまで、あらゆる困難をものともせず、彼はサヌバラテとトビヤの脅しにも対抗し(ネヘミヤ記4章)、城壁が完全に建てなおされるまで続けました。恐れがネヘミヤを邪魔することはできませんでした。

5) 信仰 (ネヘミヤ記4章14節)

「私は彼らが恐れているのを見て立ち上がり、おもだった人々や、代表者たち、およびその他の人々に言った。『彼らを恐れてはならない。大いなる恐るべき主を覚え、自分たちの兄弟、息子、娘、妻、また家のために戦いなさい。』」(ネヘミヤ記4章14節)

■ネヘミヤは信仰の人でした。彼は神を信じ、神のすべての約束を信じました。何も彼を止めるものではありませんでした。彼は神のみことばに立ち、神を信頼しました。彼の信仰は多くの人々に感銘を与えました。それによって人々は国の復興という奇跡を達成することができたのです。

6) 献身 (ネヘミヤ記4章21～23節)

■「こうして、私たちはこの工事を進めたが、その半分のは、夜明けから星の現れる時まで、槍を手にとっていた。そのときまた、私は民に言った。『だれでも自分に仕える若い者といっしょにエルサレムのうちで夜を明かすようにしなさい。そうすれば、夜にも見張りがあり、昼には働くことができる。』私も、私の親類の者も、私に仕える若い者たちも、私を守る見張りの人々も、私たちのうちのだれも、服を脱がず、それぞれ投げ槍を手にしていた。」(ネヘミヤ記4章21節～23節)

■ネヘミヤは彼の人生における神の召命に完全にその身を捧げていました。主が彼の心に置かれたものから、何によっても動かされませんでした。彼はゴールすることに心を定め、勝利を得るためにレースを走り切りました。



7) 謙遜 (ネヘミヤ記 13 章 31 節)

「定まった時に行うたぎのささげ物と、初物についての
規程も定めた。私の神。どうか私を覚えて、いつくしんで
ください。」(ネヘミヤ記13章31節)

■ネヘミヤは彼の人生において、いくつもの驚くべき
目標を達成しました。わずか52日間で城壁は完成し、
敵は追い詰められ、すべて援助した人々はこの勝利を
分かち合いました。彼は決して自分自身に栄光を帰す
ことなく、すべての栄光を神に捧げました。ネヘミヤ
の人物像を見ると、私たちは、「自分は、彼の基準と
同じ基準に合せているだろうか？私たちの周囲にい
る人々の必要に応える準備ができていだろうか？」
と、自分自身に問う必要があります。聖霊はここにて、
私たちが人生の目的を達成できるように、私たちを助
けてくださいます。聖霊こそ、私たちの時代のネヘミヤ、
神の助けなのです。聖霊は私たちの家族、町々、そし
て国の城壁を立て直すために私たちを導かれます。

廃墟を立て直す為の召し。

■これらの城壁は、神の民としての私たちのアイデン
ティティーであり、イエス様とともにあって、私たち
は聖なる国民なのです。これらの城壁はこの墮落した
世界の激流によってずっと破壊されてきました。しか
し今や、十字架で死なれ、死からよみがえられたイエ
ス様にあって、私たちはこの世界に福音を告げ知らせ、
守りの城壁を立て直すために召し出されています。人々
と国々の周りにイエス様の愛と聖霊の力という城壁を
めぐらすのです。

私たちはネヘミヤ。

■私たちの今という時において、私たちはネヘミヤな
のです！私たちの家族と社会の廃墟を建て直すために
私たちは召し出されています。イエス様を私たちの人
生にふたたび招き入れ、主が私たちの心を導かれるよ
うに、私たちの結婚、家庭、町々、国々のキャプテン
となっていただくように、私たちが正しい決断をする
ようにと召されているのです！私たちが召されている
この事業を完成させるまで、まだ十分時間はあります。
共に廃墟を立て直しましょう！

北海道地区 CFNJ 同窓生会

●9月12日(土曜日)
●学院ホール



■去る9月12日(土曜日)の午後3時30分~6時30分まで、学院ホールにて、久しぶりの北海道地区同窓生会が開かれました。今回は、2年ぶりに来日された創立者のグリコ先生とダイアン先生が、同窓生たちに励ましのメッセージを送ってくださり、理事長のガルサ先生とアドレナナ先生からも、力強いチャレンジに満ちたメッセージが語られ、2倍の霊的祝福をいただきました。又、50名以上の同窓生が参加し、教師たちや、会場作りや食事作りなどで奉仕してくれた在校生ともども、素晴らしい祝福に満ちたひと時を共有することができました。

今回から北海道地区の代表を引き受けてくれたプリンちゃんこと、桧森ひとみ姉妹が、すべてをコーディネートし、素晴らしい司会進行をつとめてくれました。素敵な賛美も卒業生のグドール・アリス姉妹を中心に構成されたチームが担当し、又パーティでは、杉田結実姉妹の協力により、最高に豪華で美しい料理やデザートが、並べられ、参加者一同、霊的に恵まれた上、心もおなかも満たされました。

同窓生を代表して、この度、2年間の岩手県大槌町での働きを終えて、北海道札幌に戻って来られた杉浦義也、みちるファミリーが、被災地での働きをDVDにまとめて公開し、多くの出会いと、被災された方々への様々な愛のミニストーリーの一部始終を、短い時間によくまとめて分かち合ってください、それを見聞きした一同の心に、大きな感銘を与えるひと時となりました。最後に、グリコ夫妻やガルサ夫妻、さらに鍛冶川学院長夫妻にまで愛のこもったプレゼントや花束が手渡され、一同、喜びと感謝に溢れる中、この恵まれた同窓生会を閉じることができました。ハレルヤ！主よ、感謝します。





出発前の集合写真（千歳空港にて）



美しい民族衣装で歓迎！



戦前サハリンに住み、戦前に救われた由上師を訪問

サハリン アウトリーチレポート！

7月11日（土）～22日（水）迄の12日間

「サハリン伝道を終えて」 学院長 鍛治川利文



素晴らしいイエス様の御名を賛美します。今回、学院のアウトリーチとして、2年ぶりにサハリンに行くことが出来ました。全行程を終えて、祝福のうちに無事に帰国することが出来たことを心から神様に感謝致します！本当に祝福に溢れたアウトリーチでした。ハレルヤ！

当初、今年は3か国の予定で、中国とミャンマーにも行くつもりでしたが、現地の受け入れ態勢が整わないという理由から、サハリン一本で行くこととなり、サハリンのほうからも20名なら受け入れ可能であるという連絡もいただき、全員でサハリンへ行くことに決定しました。行先も決まり、経済的にも旅費や献金も充分集まり、準備も順調に進み、後は出発の日を待つだけと期待に胸を膨らませていた所、突然、行く直前に思いもよらない事が起こりました。ビザ申請の為のロシア側の書類に記入ミスがあり、2名の学生が(堀本姉と山本姉)一緒に行くことができなくなってしまったのです。私自身、行く直前のアウトリーチの心得として、全員にアウトリーチのトラベルには必ず、トラブルが起こるのだという話しをしていて、予測不可能な事が旅行中には起こるものだ伝えていましたが、しかし、行く直前にこのような事が起こってしまい戸惑いました。そしてチームの代表として2名の学生には、とても申し訳ない気持ちで一杯でした。しかし、2人にその事を伝え、残ることに同意してくれて、それだけでなく、「旅行中もとりなしの祈りに専念しています！」と言ってくれました。この言葉にとっても感激しました。2人とも突然の事で、当然、残念な思いがあるのに、宣教の為に祝福して送り出してくれたのです。この出来事があり、むしろ私は今回のアウトリーチが特別な使命と祝福があることを確信しました。本当にこの2人と共に送り出してくれた学生や支援者の皆様に感謝を言いたいと思います。

今回、7月11日から22日までの11日間の日程で、サハリンの中心都市、ユジノサハリンスク（旧豊原）から港町のコルサコフ（旧大泊）、そして、ユジノから北に300キロ離れた以前の国境の町、ポロナイスク（旧敷香）という町に行きました。12日間に3つの町と3つの村の教会や路傍で約10回の集会や奉仕をしてきました。とても忙しく、中身の濃いアウトリーチでした。そして何よりも、今回、22年ぶりにサハリンを訪れ、その変化にとっても驚きました。22年前の時は、東西の鉄のカーテンが降り、ソ連邦が崩壊し、ペレストロイカが始まった直後で、国は混乱して、人々の顔は不安と無気力な暗い表情ばかりでしたが、でも今回、再び訪れて、人々の表情は明るく活気に満ちて、スーパーにはたくさんの商品がそろい、日本とあまり変わらないくらいでした。モールやレストランなどもあり、サハリンが確実に豊かになっていることを実感しました。道も整備され、以前の泥とホコリの穴ぼこ道はあまり見当たらず、サハリンの人々の生活は確実に変化しています。でも変わらないものは、当時と同じく私たちを歓迎してくれる、教会のクリスチャンたちの心でした。ようこそ！ズドラストヴィチェ！（こんにちは）と迎えてくれる、その歓迎に感動しました。特にポロナイスクの教会の皆さんの趣向を凝らした歓迎ぶりには感激しました。日本から見るロシア人に対するイメージはチームのみんなも劇的に変わったと思います。そして、更に劇的に変わったのは22年前に比べると、教会が増え、成長し、宣教が拡大していることです。今年、天に凱旋された小林繁



樹牧師の長きにわたる種まきの実を実際に見ることが出来ました。そして、現地の教会の祈りとして、これからサハリンがロシア全体へのリバイバルの発信地になるようにという祈りを聞きました。サハリンに着いた翌日の礼拝の中で、サハリン全体の監督者でもあるピーター牧師が、この祈りを捧げていました。サハリンの教会は今、新たなステージに進もうとしているのが分かります。神様はサハリンを通してロシアを変えるために、新しい働きを起こそうとしておられると感じました。日本とサハリンは近くて遠く感じる隣人でした。でもこのアウトリーチで、日本にとってサハリンの地は同じ列島に連なる、近くて近い神の家族です。この宣教旅行を通して、これからも交わりを深め、共にリバイバルの発信地となっていくように神様は願っておられると思います。

このアウトリーチの為に祈り、捧げ、支えて下さったすべての神の家族の皆さんに感謝を申し上げたいと思います。また、今回、特別に同行して下さった講師の石田先生、又、送り出してくださった聖協団の教会の皆様、又、何よりもピーター監督と奥様、特にピーター監督はガン宣告を受けていたのにも関わらず、私たちのチームを快く受け入れて下さいました。そして、私たちチームを全行程で支えて下さったビクトリー先生やエレナ先生、忙しい中、運転手を務めてくれたコーリア兄弟、奥様、そして、愛するサハリンの兄弟姉妹に心からの感謝を申し上げます。そして、最後にこのアウトリーチの全てを導いて下さった神様に感謝と賛美を捧げます！ハレルヤ！



ビュリテイセミナー



石田師の力強い証とメッセージで会衆は皆感動しました。



浴衣で踊る姉妹たち
大きなタラバガニが！



田上姉（88才）はこの1週間後に天に凱旋されました。



霊に燃えた若者たちであふれました。



ティクメネヴァ村の人々



大きく用いられたスキット「リディマー」

「異言の祝福」

グドール・ジェラルド師

「異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。」(Iコリント14章2節)



■クリスチャン生活において祈りは重要な位置を占めています。ペンテコステの日以降最初の記録されている教会運営に関する決定は祈りに関するものでした。「私たちは、もつばら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」(使徒6章4節) 聖霊の満たしを受けるのも、保つのも祈りが重要です。パウロは「すべての祈りを用いなさい。」(エペソ6章18節)と言いました。「すべての祈り」の中に「異言の祈り」がありますが、異言の祈りの祝福について考えてみましょう。

1. 神に向かって話す。

「異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。」(Iコリント14章2節)

■知性による祈りも重要ですが、時として、私たちの知性は祈りの妨げとなり得ます。異言は霊が祈ることなので、知性を通過しないで祈れるという祝福があります。異言の祈りは、神とひとつになるための大切な手段として用いられます。

●異言の内容は？

■みことばによれば、異言の祈りの内容には次のものがあります。

・**賛美**「彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。」(使徒10章46節)

・**感謝**「では、どうすればよいのでしょうか、私は霊において祈り、また知性においても祈りましょう。霊において賛美し、また知性においても賛美しましょう。そうでないと、あなたが霊において祝福しても、異言を知らない人々の座席に着いている人は、あなたの言っていることがわからないのですから、あなたの感謝について、どうしてアメンと言えるでしょう。あなたの感謝は結構ですが、他の人の徳を高めることはできません。」(Iコリント14章15節～17節)

・**奥義**(Iコリント14章2節)(上記参照)この節で使われている「奥義」ということばは、王、将軍、親友との特別な会話という意味に使われることばです。韓国の崔子実牧師は、ある時自分の祈っている異言の解き明かしが与えられました。その内容の中に、「銀の翼に乗って全世界に羽ばたく」という部分がありましたが、果たしてその通りに実現して、彼女は日本を含めて、世界各地に飛び、主の働きのために豊かに用いられました。このように、異言の祈りには、賛美、感謝、奥義というすばらしい内容が含まれているのですから、何もはばかることなく、堂々と異言で祈りましょう。

2. 自分の徳を高める。

「異言を話す者は自分の徳を高めますが、預言する者は教会の徳を高めます。」(Iコリント14章4節・5節)

■「徳を高めます」はギリシャ語で「オイコドメオ」と言います。この言葉は、「家」を意味する「オイコス」と、「建てる」を意味する「ドメー」という部分でできていることばです。つまり、異言で話す事によって、あなたという人が建て上げられて行くということです。

●異言で祈ることは？

①霊的成長を促します。

■「オイコドメオ」は、Iコリント8章10節でも使われていて、「力を得て」と訳されています。ですから、異言で祈る人は、内なる人が充電されて、力を得ます。解き明かしがあれば、それは、教会全体の霊的成長を促します。(14章5節)

②自分自身を築き上げます。

「しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り。」(ユダの手紙20節)

■聖霊によって祈ることにより、自分自身を築き上げることが出来ます。聖霊によって祈るとは、異言の事だけではありませんが、異言の祈りも含んでいます。ここで使われている、「築き上げる」のギリシャ語の、「エポイコドメオ」には「エビ」が含まれており、「～の上に」という意味があります。他の人を励まし、建て上げようと思えば、それをする本人が建て上げられる必要があります。異言で祈ることによって自分自身を建て上げることができるということです。私たちは、いつでも、どこでも、異言で祈ることができます。機会のあるたびに異言で祈り、力を得ましょう！

3. 知らない事のための祈りを可能にする。

「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いたいような深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。人間の心を探り窺める方は、御霊の思いがなにかをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。」(ローマ8章26節・27節)

■この個所で、パウロは、私たちは誰もどう祈ったらよいか分らないと言っています。しかし神の御霊という力強い味方がおられて、もし私たちが協力すれば、この方は「言いたいような深いうめきによって」私たちのためにとりなしてください。しかも神の御霊は神の御思いが何であるかを常に知っている訳ですから、必ずみこころにかなったとりなしをしてくださるのです。ところが、御霊はどのように私たちを通して祈ることができるでしょうか。私たちがいかなる祈り方をしても、聖霊が私たちを助けようとしてくださることは確かですが、ここでは使徒パウロは別のことについて語っています。パウロは明らかに御霊によって祈ること、すなわち、異言を話すことについて語っているのです。この場合、聖霊はクリスチャンを通して祈ってください。さてパウロは、自分は霊においても祈るし、また知性においても祈る、つまり、二つの方法で祈ると言っています。(Iコリント14章15節)知性においても祈ることもすばらしいし、霊においても祈ることもすばらしいのです。自分がどのように表現したらよいか分からない時、私たちは異言で祈ることができます。すると御霊は私たちを通して祈ってください、私たちの願い事を神の御前にとどけてくださるのです。ローマ人への手紙8章28節にあるすばらしい約束が、聖

霊が私たちのとりなし手として、私たちの中におられると言う、8章26節の御言葉の後に続くのは偶然ではありません。聖霊が私たちを通して祈ってくださるとすれば、すべてのことが益になるに決まっています。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」(ローマ8章28節)

※ゴードン・リンゼイ著「聖霊のバプテスマを受けるには」p15より引用。

4. いつでも、どこでも、自分と神とに話せる。

「もし解き明かす者がだれもいなければ、教会では黙っていないさい。自分だけで、神に向かって話しなさい。」(1コリント14章28節)

■直訳では、「自分と神とに語りなさい」となるそうです。「教会で」(v28)で、異言によって自分と神とに語ることができるのなら、職場でもバスや電車の中でも、どこでもできるということです。このようなどころでは、大きい声を出して異言で語る必要はありません。このようにして異言で語ることは、この世の汚れから自分を守る一つの手段となります。世の中で生活していると、この世の悪い音楽や、この世の人々の汚れた内容の会話が入ることがあります。そういう時、異言で祈ることによってこの世の汚れから自分を守る事ができます。私は、仏教のお葬式に参列する際、お経が読まれる時、静かに異言で祈るようにしています。

5. 霊的憩い、休息となる。

「まことに主は、もつれた舌で、外国のことばで、この民に語られる。主は、彼らに『ここにいいいがある。疲れた者をいこわせよ。ここに休みがある』と仰せられたのに、彼らは聞こうとはしなかった。」(イザヤ28章11節・12節)

■これは、パウロが1コリント14章で異言について引用した旧約聖書の箇所です。異言で祈ることは、霊的ないこい、休息を与えてくれるのです。

●霊的にリフレッシュされる。

■異言で祈ることはまた、私たちを霊的にリフレッシュしてくれます。ここで使われている「休み」という言葉は、ペテロが使徒3章19節・20節で「回復の時」(times of refreshing)として使ったのと同じことばです。霊的にリフレッシュされたければ、異言で祈ってください。

●「もつれた舌」

■もうひとつ付け加えたいことがあります。「もつれた舌」とありますが、聖霊のバプテスマを受けて最初は異言が流ちように出てこないかもしれせん。でも心配しないでください。赤ちゃんも最初は流ちように言葉を話せません。少しずつ話す事によって、だんだん流ちように話せるようになります。忠実に与えられた異言で主に向かって話し続けてください。

6. 舌を制することの実践。

「しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじつとしていない悪であり、死の毒に満ちています。」(ヤコブ3章8節)

■「舌」、つまり「ことば」の使い方です失敗したことのない人はいないでしょう。「あんなこと言わなければよかった」と思うようなことを言ってしまった経験は誰にでもあるでしょう。それほど、舌は扱いにくいのです。英語では、異言のことを、"tongues"と言います。

"tongue"には「舌」という意味と、「言葉」という意味があります。神様の霊に満たされ、浸される、「聖霊のバプテスマ」の最初のしるしの一つが「異言」であることには、神様の深い意図があると思えます。つまり、私たちの体の中で一番制御しにくい「舌」を神様が支配してくださって、自分で語ることでできない言葉で語らせてくださるということです。とても意義深いですね。

「また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」(ローマ6章13節)

■異言で祈ることは、このみことばを実践する良い方法です。あなたの舌を義の器として神にささげ、異言で祈ってください。機会のあるごとに、異言で祈ってください。自分一人の時でもそうしてください。また他のクリスチャンと集まる時にもどンドン異言で祈ってください。「異言の祝福」を実際に体験し、その祝福を周りの人に分かち合う方となってください。■

■付録「異言と右脳の関係」※異言と右脳の働きに関する興味深い文章を紹介します。異言で祈ることは、聖霊様の直感的な声をより容易に聞く助けとなります。「また、多くの人が、幻を使ったり、自然の美しさを楽しんだりすること(どちらも右脳の機能)によって、聖霊様の直感的な声の前において適切な状況に自分を置くことができることを発見しています。カルバン・ジェスキ(Calvin Jeske:カナダ、カルガリー)が行った興味深い学術研究では、異言を語ることで、右脳の電氣的活動が活発化することが分かっています。ちなみに、通常の発話では、左脳の電氣的活動を活発化させます。ですから、幻、音楽、自然、異言をぜひ利用してください。これらは、聖霊様の直感的な声を、より容易に聞くための準備を整える助けとなります。」「神の声を聞くための4つの鍵」(マーク&パティ・ヴァークラー著) p70より引用

理事会の報告

9月10日(木) 午後1時より

新たに「有賀喜一」師が、学院の顧問に加わって下さり、定例の理事会が開かれました。



時点で全国に、約125の神学校が存在すること、平均学生数は約15人程度で、最大が60人位と思われ、この報告がありました。今傾向的に神学生が減少しており、献身者がたくさん起こされる必要が語られました。その他、各顧問の先生方から、貴重な意見が出され、これを感謝します。

●CFNJ聖書学院の総合的監督は、宗教法人「アジア・キリスト福音宣教会」の理事に任されていますが、去る9月10日に理事会が開かれ、理事長ロドルフォ・ガルス師をはじめ、理事のグドール・リチャード、安田諭、鍛冶川利文、グドール・ジェラルド、小栗昭夫、ジェリー・ジャンセンの各師が集まりました。今回は、これに加えて、学院創設者のチャールズ&ダイアン・グリコ夫妻、学院顧問の奥山実、米村英二、稲福エルマの各師が遠くから集まってく下さいました。今回の理事会より、近年学院に教えに来て下さっている有賀喜一師が、正式に学院の顧問となつて下さり、心より感謝して報告させていただきます。

●学生の動向…現在の学生数は、9月に3名の新入生が入り19名、聴講生は5名で、合計24名。

●経済報告…2014年度の経済状況は、収入が減り厳しい状況が続きましたが、現在も学院には借金がないことの感謝。2015年の年末までに必要な収入金額は、通常の収入以外に600万円が見込まれていることが報告されました。

●学院の運営…新顧問の有賀師が、日本の神学校の状況について、現



●新たに加わられた有賀師と学院理事と顧問。

新入生の紹介

2015年度2学期(9月)から

■2015年度2学期から、主は学院に3名の新入生を送っていただきました。いずれも18歳~21歳までの若い兄弟姉妹で、一人はブラジル系の姉妹一人はベネズエラ人の父と日本人の母、又、牧師の祖父を持つ姉妹、もう一人は日本人ですが、小学校高学年から高校まで、教会付属のインターナショナルアカデミーで、すべてが英語の授業をマスターして卒業した兄弟で、正に、次世代の働き人として大きな可能性を秘めた3名です。どうぞ、彼らの成長を見守り、祈りを持って応援して下さいをお願いいたします。



■主の御名をほめたたえます。学院へ来てから1ヶ月が経ち、学院の皆様の温かさに感動しており、感謝です。主は本当に良いお方。これからも、詩篇27篇4節を土台にビジョンに向かって勉学に励みたいと思います。

藤原 聖也



■北海道に着いて“これからだっ!”と神様への喜びと感謝で心は燃えた!!ここにたどり着くまでは、本当に長い道のりで、試練もありましたが、神様は苦しみを遥かに超える、喜びをも必ず与えてくれることを学びました!イザヤ書55章8節~9節

佐藤 メグミ



■ハレルヤ!主の御名を心から賛美いたします。今回、CFNJに入学して、周りの方々に支えられ早くも1ヶ月が経ちました。ここでの学びの期間では神様の偉大さとみことばの深みに、もっとも目が開かれるよう期待しています。いろいろと新しい事にも挑戦していきたいです。

プーチ 聖美



3学期 授業カリキュラムスケジュール ゲストスピーカー (2016年1月12日(火)~3月4日(金)迄)

●ゲストスピーカーの授業は、どなたでも無料で聴講出来ます。(自由献金制、テキスト代有料。)通常の授業も聴講が出来ます(有料)又、入学を検討されておられる方には、無料体験入学制度もありますので、詳しくは事務局までお問い合わせください。



1月18日(月)~22日(金)迄
米村 英二 師

熊本県大津キリスト教会牧師。
CFNJ 聖書学院顧問。

●3月4日(金)午前9時より「卒業式」が行われます。

1・2時間目

1・2年コース (必修科目)

(敬称略)

	月	火	水	木	金
1 AM9:15~10:10	信仰の決断 田中 信矢	旧約聖書概論Ⅲ 鍛冶川 利文	聖書の自己像 江引保・ゴール	聖書の夫婦に学ぶ 鍛冶川 紀子	終末論 松原 望
2 AM10:30~11:25			霊的戦いの賛美 岡田 留美子		
3 AM11:35~12:30	ガラテヤ書 田中 博	児童伝道 内越 努		ガラテヤ書 田中 博	今日のイエス・キリストの奇跡 J・ジャンセン

アルプスコース (必修科目)

1 AM9:15~10:10	教会論 田中 博	牧会カウンセリングⅢ 小栗 昭夫	教会教育 益田 良一	伝道牧会の実際 石田 吉男	五役者の学び 岡田 好弘
2 AM10:30~11:25					
3 AM11:35~12:30	ディスカッションクラス	聖書ヘブライ語	金 聖圭	上級説教	松原 望

選択科目

午後 PM13:30~15:30	ドラマクラス チップ・ブラウン 英語クラス G・グドール	タバリングクラス 鍛冶川 紀子	ピアノクラス ボイストレーニング 新井 田路子	実習 (必修)	ドラマ演劇クラス 鍛冶川 紀子
---------------------	---------------------------------------	--------------------	-------------------------------	------------	--------------------

年末までの緊急献金のお願い！

いつも学院の働きを覚え、共に信仰に立って祈り、支えてくださる皆様に心から感謝申し上げます。2015年も、ここまで主がすべての必要を満たし、支えてくださったことを覚え、主に感謝と賛美を捧げるものです。ご報告として、10月1日までに、コンピューター指定献金が、202,000円捧げられ、問題だらけの古い2台のコンピューターに替わって、新しい2台を購入することが出来ました。主と、捧げてくださった皆様に心から感謝いたします。

しかし、毎年、同じような時期に起こるチャレンジですが、この年末までに又、大きな必要が生じています。神様にとっては小さな金額と信じてますが、私たちも、信仰によって主の備えを期待すると共に、学院を支えてくださる皆様にもこの為の、特別なお祈りとご支援をお願いする次第です。どうか下記の必要のために、覚えてお祈りください、お捧げ下さいますようお願いいたします。

- 1. 年末までの運営資金・・・・・・・・・・・・ 600万円
- 2. 5人の有給スタッフへの年末特別給与・・・・ 80万円

(注：2. は上記の運営費の中には含まれておらず、ここ数年支給されずにきたものです。)

まもなく、厳しい冬が訪れようとしています、皆様方におかれましては、日々“たましいに幸いを得ておられるように、すべての面で幸いを得、健康で”あられますように、心から祝福をお祈り申し上げます。シャローム！

CFNJ聖書学院 学院長 鍛冶川利文&鍛冶川紀子&ジェラルド・グドール

献金の受取及び使用に関する学院の方針

「皆様の犠牲的献金は、CFNJ 聖書学院に対する尊い信頼の現われと感謝しています。私たちは皆様の献金を、出来得る限り、最も効果的な方法で用いることを誓います。あるプロジェクト（特別な必要）のために明確な目的で捧げられた指定献金は、すべて、その目的のために用いられます。その指定献金が、目標金額を超えるような場合には、同等の差し迫った必要のために用いさせていただきます。私たちがの方針は、キリストの御名が高く掲げられ、福音が前進するために、神様が私たちの必要のすべてを、満たしてくださる方であることを、信じることです。」



CHRIST FOR THE NATIONS JAPAN BIBLE SCHOOL

あなたも学んでみませんか？

2016年度4月からの 新入生募集中！

(2016年1月からも入学出来ます)



学院の特徴

- 毎朝の賛美礼拝
- 充実した学ぶ環境
- 世界各地からのゲスト講義
- 個人能力を伸ばす為の多彩な選択科目
- 卒業後のアメリカ留学制度
- 2年に1度の海外宣教
- バランスのとれた学ぶ科目
- 超教派

ホームページをご覧ください！

cfnj.com

体験入学も可能です。

授業料、宿泊費、食費込み

※詳しい資料ご希望の方は、学院事務局までお知らせ下さい。

コース

- ★演劇・ドラマコース
 - ★タンバリンクラス
 - ★ドラムクラス
 - ★ピアノクラス
 - ★英語クラスほか
- アルプス(牧師リーダー)コース
1・2年コース
短期コース
通信・聴講制度

クリスマスのプレゼントにどうぞ！

CFNJ CD販売・刊行物

不治の病と言われた難病である、筋ジストロフィー症からの奇跡の癒し！

「神の指がふれた時」



感動の証し朗読CD
定価/1枚(CD)(送料別) **700円**

神のみことばの いやしの力



定価/1枚(CD)(送料別) **1,000円**

「山をも動かす祈り」

ゴードン・リンゼイ著
(復刻改訂版)



無料
プレゼント！



ゴードン・リンゼイ著
(復刻改訂版)

「聖霊のバプテスマを受けるには」

驚くべき憐れみに満ちた人生の証

「主の恵み尽きることなく」

副学院長 鍛冶川 紀子著

●お申し込みは/学院事務局まで

※サンプルは、右記のページで聴くことができます。 <http://www.cfnj.com/media.html>



宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネーションズ日本校

CFNJ聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

●HP:www.cfnj.com 郵便振替:02780-4-4688
●e-mail:office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

